

閑話休題・・・

「ナギはな・・・ちぎっても切れぬ・・・契りを結ぶ樹だと言われている。

安珍・・・おぬしは、これを清姫に、愛の証として手渡すがいい・・・。

熊野の神は、きつと、おぬしとその娘を結び付けてくれるだろう・・・

努々、疑うでないぞ・・・！」

増皇は、また、いたずら坊主のような頬笑みを浮かべた・・・。

安珍は、そのナギ人形を惜しいたいた・・・。

ナギの実の上に、細い面相筆で描かれた眼が、清姫の切れ長の瞳を想い出す・・・。

安珍は、胸がいっぱいになった・・・。

熊野の神木ナギ

